



みんなは知っているかな？
土岐市は地域ごとで、作っている
やきものに特色があったんじゃ！



土岐市のやきものは江戸時代から昭和の初期までの間に、
原料や歴史的・社会的な理由で製品に違いができて、各
地域ごとに特色がありました。

湯呑み・煎茶碗

昭和に入ってから磁器
の煎茶碗の生産が盛ん
になりました。

泉

-IZUMI-



土岐津

-TOKITSU-

土瓶・湯呑み

江戸～明治にかけ
て土瓶・湯呑みなど
の生産が盛んでした。

徳利・ぐい呑み

江戸の後期から徳利や
盃が多く作られるよう
になりました。

下石

-OROSHI-



肥田

-HIDA-

皿

昭和に入ってから三五
皿(小皿)の生産が盛
んになりました。

コーヒーセット

昭和頃からコーヒー碗
皿や西洋食器が盛んに
作られました。

妻木

-TSUMAGI-



駄知

-DACHI-

どんぶり

江戸～明治は土瓶や菊皿、
昭和になってどんぶりな
どが多く焼かれました。

原料

陶磁器原料等をつくる
工場が現在もあります。

鶴里

-TSURUSATO-



曾木

-SOGI-

割烹食器

他地域に比べて窯元は少
ないですが、幅広いやき
ものが生産されていました。



でも今は、各地域の窯元さんもだんだんといろんな種類のやきもの
を作るようになって、地区ごとの違いも少なくなってきているみた
い。次回は、色んな地区の窯元さんにお話を聞きに行くよ！



私たちのまち・土岐市は
やきものまちです。『みや
き博士』『みやのやき志野ち
ゃん』と一緒にやきものの知
識を学んでいきましょう。

TOTTOKI

美濃焼振興室
(☎8312)

市長の部屋から

7月22日(日)

第63回土岐市織部まつりで、NHK連続テレビ小説「半分、青い。」に出演し、同番組で東濃弁を指導するなど幅広く活躍する駄知町出身の俳優、尾関伸次さんに市観光大使を委嘱しました。また、同大使を務める酒井敏也さん、神奈月さんとのトークショーも行われ、多くの来場者でにぎわいました。



尾関さんには、本市3人目の
観光大使を快く引き受けてい
ただき大変ありがたく思います。
大使の皆さんにはメディアなど
を通じて、本市をどんどんPR
していただけたらと思います。

現在、本市では自然や景観を生かしたライト
アップや窯元めぐり、史跡・遺跡に関連したイベ
ントなど、市民の皆さんが考案するさまざまな取
り組みが行われ、観光客の増加だけでなく地域の
活性化へとつながっています。今後も皆さんと共
に、観光資源となる宝物を発掘し磨き上げ、本市
の魅力を満喫できるような観光施策を進めてま
いりたいと思います。 土岐市長 加藤靖也

